

## 豊島棚田くらぶ 2024 年度活動実績

はじめに 新型コロナウイルス感染症は、5類感染症に変更されてから2年目となりほぼ平常の生活・活動に戻り、豊島での活動もコロナ禍前の例年並み・計画どおりに実施できた。なお本年は「瀬戸内オリーブ基金」から支援を受け3年目の活動である。

1. 豊島の活動内容、回数、参加者数 コロナ禍の影響もなく、年度計画通りの活動ができた。稲刈りは例年より実りが早く急遽作業予定日より1週間早め、また刈り取り・稲架がけと脱穀が別の作業日となったものも、それぞれ10数人の参加者があり滞りなく収穫ができた。年間活動回数24回、延参加者数は225人と計画(20回、200人)を上回った。詳細は別途「2024年度活動実績一覧表」のとおりである。なお年度当初の正会員は60人、賛助会員は3個人、3法人である。

2. 棚田の保全・景観 4～12月にかけては例年並みの活動回数を確保することができ六角庵周辺や棚田は稲作、畑作、花の栽培、畔や石垣の草刈りを行うことにより、年度を通しほぼ良好な景観を確保できた。また当くらぶの棚田に隣接する下側の棚田の草刈りも実施し、「唐櫃の清水」から瀬戸内を見渡す眼下一帯の棚田の景観を確保することができた。なお次年度も作業日には少しでも畔の草刈り作業ができる時間を確保していく。

### 3. 主な作物栽培

(1) 稲作 田植えは昨年に引き続き6月末の第4日曜日とした。7～8月の炎天下の田んぼの草取りは、厳しい暑さのなか各回11、6、9人の参加者があり予定通り3回実施できた。本年は夏場の水不足もなかったが収穫量は例年よりやや少ない195kgとなった。ちなみに県下の作況指数は、平年並みの100である。6月下旬や7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、穂数は例年よりやや少なくなった。ただ7月上旬や下旬の気温や日照時間が平年を上回ったことにより、1穂当たりのもみ数は平年並みとなった。8月上旬以降も気温や日照時間が平年を上回って推移しているものの、もみの成熟具合を示す「登熟」は「平年並み」となった。(中四国農政局)

(2) 小麦 前年12月に畑2枚(4B,5B)に種まきをしていた“ダイシモチ(もち麦)”約30kg収穫した。例年の“さぬきの夢”から“ダイシモチ”に変更してから初めての収穫であった。なお5月刈り取り時期には“さぬきの夢”は春の棚田に黄金色の畑となるが、“ダイシモチ”は茎・葉は薄い土色、また紫色の実を覆う外皮も薄い土色であり、雑草にも覆われたこともあって以前の黄金色の棚田風景と違ったものとなった。

(3) 蕎麦 8月下旬も猛暑が続くなか畑2A,2Bに種まきをして11月に収穫した。本年の蕎麦は夏場から10月にかけてずっと高温が続いたためか、実

2025年4月総会資料

りが遅く例年なみの刈り取り予定日にはまだ20～30%ほど白い花が残り、結実した実もまだ小粒の実が多い状態であった。収穫量は10kg程にとどまり、12月の収穫祭・蕎麦祭りと年末の年越しそばでほぼ使い切る量となった。

(4) 大豆 「豊島味噌づくり愛好会」の方々と協働し、大豆栽培に挑戦した。畑2Aに作付けしたが、昨年と同様に花が咲き結実するころの水が不足し少量の収穫量にとどまった。次年度は、保水対策として一区画を黒マルチで覆うなど景観に配慮しながら試行していく。

(5) 花 六角庵前の花畑に種々の花を栽培し、除草もいきとどき季節の彩りを伝える花畑となった。

(6) その他作物 ジャガイモ、タマネギ、ニンニク、サトイモ、サツマイモなど栽培。ジャガイモは春作100kg越え、秋作は60kgほどと大豊作となった。サツマイモ、サトイモはイノシシ被害に会い収穫なしとなり、次年度は防獣柵を追加設置することとする。なお、化学製品の黒マルチは使用しないこととしていたが、棚田景観に配慮しながら一部作物栽培には黒マルチを使用し防水・防草を図り、合わせてある程度の収穫量確保を期待することとする。

### 4. その他特記事項

(1) 収穫物の販売 お米、小麦粉、ジャガイモ・タマネギなど会員で分かち合い、残りは販売し運営費に充当した。蕎麦粉は年越し蕎麦(手打ち蕎麦)として付加価値を高め販売しわずかながらも収入増とした。なを例年の蕎麦粉自体の販売収入はなしである。

(2) Earth Day Teshima ～協賛出店 4月に開催され、“ゴミ拾いwalk”、“産業廃棄物跡地ツアー”、“映画上映”など多彩なプログラムがあり、ShinAiKanでは地元若者中心に飲食10店舗、当くらぶは唐櫃岡で栽培した蕎麦を使用した、手打そば屋を出店した。豊島産蕎麦の味、リーズナブルな価格に感嘆の声もあり、用意した蕎麦は売り切れになるなど大好評であった。

(3) 収穫祭・蕎麦祭り 天候に恵まれ、多数の参加者(大人、子供合わせて20人)があり、ジャガイモの収穫、タマネギ苗の植え付けに始まり、子供たちは蕎麦打ち体験をし、昼食は“手打ちそば”と“そばガレット”を十分に堪能し、楽しい賑やかな1日となった。

(4) 活動地の拡大 当くらぶ活動地に隣接する棚田最上段の畑、および六角庵直下の畑が耕作放棄地となることとあり、両地権者了解の上、当くらぶが引き続き畑として耕作することとした。

(5) その他 この数年間見合わせていた8月の上期報告会、9月のBBQを開催した。